

知床ウトロ学校のESD実践

～『地の果て』のオープンカリキュラム～

斜里町立知床ウトロ学校 学級数12 (校長 小野寺 哲浩)

I 実践テーマの趣旨

本校は、世界自然遺産知床の観光拠点となる斜里町ウトロに位置する北海道で初めての義務教育学校であり、豊かな自然環境のほか、多文化共生を考えるきっかけとなるオホーツク文化の遺跡などの歴史遺産教材、100平方メートル運動地や国有林伐採反対運動などの自然保護活動を先導した地域人材など、教育資源が豊富である。また、様々な国から観光客が訪れ外国人が働くウトロ温泉のホテル群など産業に関わる教材も有するなど、多様な視点からのESD教育を展開することができる全国的に見ても貴重な地域であると言える。こうしたことから、本校では平成22年のユネスコスクール認定以来、地域の豊富な教材を学校教育に積極的に生かしつつ、「社会に開かれた教育課程」を先駆的に取り組み、「持続可能な開発のための教育(ESD)」を実践してきた。

II 実践の内容

1 義務教育学校のよさを生かした系統的な学習

各学年で学習する各教科等の指導事項と関連付けながら、地域や現代的な諸課題を段階的に学べるようESDの学習テーマを設定した。9年生では、修学旅行先において、地域の課題を解決する方策について地域住民にプレゼンするワークショップを実施したり、隣接する羅臼町知床未来中学校との交流や討論をしたりするなどの実践を行った。さらに、学習のまとめとして、これまで取り組んできたことを斜里町民に提案する学習活動も展開している。これらの学習活動を系統的に実施するために、子どもに身に付けさせたいコミュニケーション能力や情報活用能力、各学習と関連するSDGs17のゴールを位置付けた学習系統表を作成した。

学習課題、学年	1【生102】	2【生105】	3【総70】	4【総70】
各学年の目標	動植物の観察や地域の施設・人々に関する学習を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立した生活を営みながら生きていくための知識・能力を習得する。	地域の自然や生活、歴史について探究する学習を通して、取り組む課題を解決していくための知識・能力を習得する。		
ふるさと知床学習のテーマ	「身近な人と自然」	「身近な人と町」	「知床の自然」	「知床の生活・歴史」
ふるさと	<ul style="list-style-type: none"> 国語「あそびともだちになろう」 道徳「あそびともだちになろう」 算数「あそびともだちになろう」 理科「あそびともだちになろう」 社会「あそびともだちになろう」 総合「あそびともだちになろう」 外国語「あそびともだちになろう」 英語「あそびともだちになろう」 音楽「あそびともだちになろう」 体育「あそびともだちになろう」 芸術「あそびともだちになろう」 情報「あそびともだちになろう」 職業「あそびともだちになろう」 キャリア「あそびともだちになろう」 国際「あそびともだちになろう」 外国語「あそびともだちになろう」 英語「あそびともだちになろう」 音楽「あそびともだちになろう」 体育「あそびともだちになろう」 芸術「あそびともだちになろう」 情報「あそびともだちになろう」 職業「あそびともだちになろう」 キャリア「あそびともだちになろう」 国際「あそびともだちになろう」 	<ul style="list-style-type: none"> 国語「あそびともだちになろう」 道徳「あそびともだちになろう」 算数「あそびともだちになろう」 理科「あそびともだちになろう」 社会「あそびともだちになろう」 総合「あそびともだちになろう」 外国語「あそびともだちになろう」 英語「あそびともだちになろう」 音楽「あそびともだちになろう」 体育「あそびともだちになろう」 芸術「あそびともだちになろう」 情報「あそびともだちになろう」 職業「あそびともだちになろう」 キャリア「あそびともだちになろう」 国際「あそびともだちになろう」 	<ul style="list-style-type: none"> 国語「あそびともだちになろう」 道徳「あそびともだちになろう」 算数「あそびともだちになろう」 理科「あそびともだちになろう」 社会「あそびともだちになろう」 総合「あそびともだちになろう」 外国語「あそびともだちになろう」 英語「あそびともだちになろう」 音楽「あそびともだちになろう」 体育「あそびともだちになろう」 芸術「あそびともだちになろう」 情報「あそびともだちになろう」 職業「あそびともだちになろう」 キャリア「あそびともだちになろう」 国際「あそびともだちになろう」 	<ul style="list-style-type: none"> 国語「あそびともだちになろう」 道徳「あそびともだちになろう」 算数「あそびともだちになろう」 理科「あそびともだちになろう」 社会「あそびともだちになろう」 総合「あそびともだちになろう」 外国語「あそびともだちになろう」 英語「あそびともだちになろう」 音楽「あそびともだちになろう」 体育「あそびともだちになろう」 芸術「あそびともだちになろう」 情報「あそびともだちになろう」 職業「あそびともだちになろう」 キャリア「あそびともだちになろう」 国際「あそびともだちになろう」
未来探学学習のテーマ	「もうすぐ2年生」	「えがおのひみつたんけんがい」	「学校内のあるがこれの先」	「ウトロの歴史」

【各学習と関連するSDGs17ゴールを位置付けた学習系統表(一部抜粋)】

2 ESDに係る資質・能力の明確化

教育課程の核にESDに係る資質・能力を位置付け、子どもに身に付けさせたい資質・能力について、学校教育のどの場面で身に付けさせるのか、研修を通じて明確にするとともに、どのように評価していくのかを整理し、全教職員で共通理解を図った。

3 核となるSDGs学習

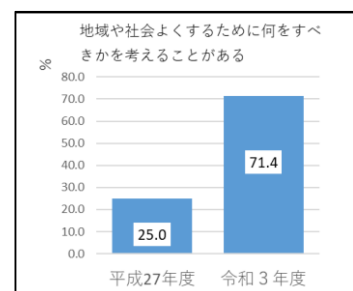
7年生、8年生の学習では、1年前から持続可能な社会を考える基盤として、SDGsに係る学習に取り組んだ。7年生ではSDGs入門として、17ゴールに関連する新聞記事をさがし、「問題」「解決に向けた動き」について調べたことを発表交流し、廊下に掲示した。8年生では、「開発教育教材」などの体験を通じ、身近な問題がSDGsにつながっていることを理解した上で、それぞれが設定したテーマについて、新聞や書籍インターネットなど多様な媒体を用いて探究してまとめる活動を行い、9年生の地域の課題解決の学習活動に生かせるようにした。



【子どもが作成した知床学習の掲示】

III 実践の成果(○)と課題(●)

- 教育課程の核にESDに係る資質・能力を位置付け、SDGsの17のゴールの視点で系統的な指導を行ったことにより、児童生徒アンケートにおいて、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した子どもの割合が増加し、持続可能な社会の担い手としての態度や能力を計画的に育むことができた。
- 身に付けさせたいコミュニケーション能力や情報活用能力、各学習と関連するSDGs17ゴールを明確にした指導を行ったことにより、学年が上がるにつれ、主体的に学んだことを発信しようとする子どもの割合が増加した。
- 持続可能な社会の担い手として必要な資質・能力を確実に身に付けさせるため、より多様な他者との交流を促すカリキュラムへと発展させる必要がある。



【児童生徒アンケート結果】